

平成19年産大麦の生育概況

J A 福井県経済連 生産指導部

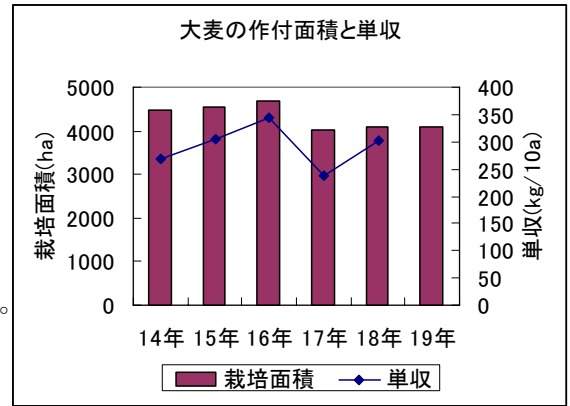
1 作付け面積 4, 100 ha

2 播種時期および播種方法

茎数過剰からの細麦発生を防止するため、10月中旬に入ってから播種を推進したことおよび10月上旬は降雨が続いたことから、播種時期は適期の10月中旬以降が約8割となった。

播種最盛期の10月中旬は晴天が続いたため、作業は順調に行われた。

条播率は県平均約93%で前年より3%高くなった。また、基肥一括肥料を使用した栽培面積率は約50%と昨年より17%増加した。



3 気象と越冬前の生育

気温が高めに推移したため、一部早播きされた圃場は茎数過剰となった。

暖冬のため積雪はほとんどなかった。

生育基準圃の12月上旬の生育は過去5年間平均と比較すると、草丈やや長め、茎数やや多めであった。

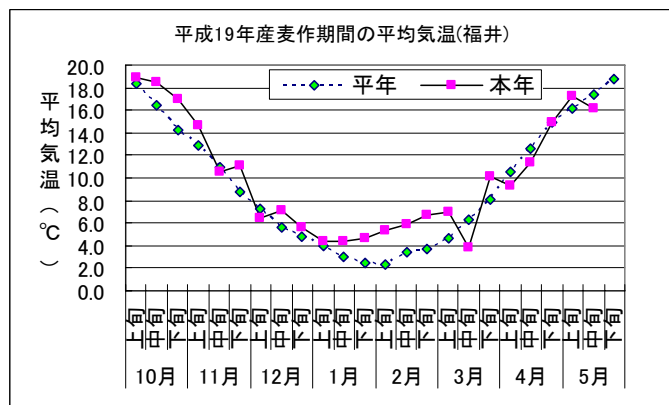
麦生育基準圃の越冬前（12月）生育

年産	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)	
	平均	範囲	平均	範囲
19	22.2	16.3~35.6	552	420~650
18	19.4	16.0~21.8	430	348~604
17	19.1	15.5~24.7	441	156~708
16	26.7	17.0~38.3	557	433~931
15	13.2	6.9~23.4	403	212~674
14	18.8	12.9~27.5	606	280~880

4 積雪と越冬後追肥、穂肥

1月に入っても気温が高めに推移し、積雪はほとんどなかった。この暖冬傾向は3月上旬まで続いた。中山間の奥越では1・2・3月とも上旬に積雪が一時あった程度である。

暖冬により、大麦の生育が早く進んだため、越冬後追肥は例年2月中～下旬に施用していたが、本年は1月末～2月上旬に施用した。大麦の生育がやや旺盛であったため、生育量に応じた施肥量を徹底した。



穂肥の施用時期は第1回が大麦の幼穂長7mmの時期に合わせ3月上旬に、第2回は3月下旬に、生育量に合わせて施肥量を加減して施用された。

3月中旬の大麦の生育は県生育基準圃平均で草丈26.3cm、m²当たり茎数661本であった。

5 出穂期及び成熟期

本年の大麦の出穂は嶺南・坂井地区の早いところで4月5日頃から始まった。地区別の出穂期は嶺南地区が4月10日頃、坂井地区が4月11日頃、福井・南越・丹生地区が4月13日頃、奥越地区が4月20日頃だった。

平年より5日程度、昨年(平成18年産)より13日程度早い。4月に入って低温が続いているため、出穂から開花までの10日近くかかるなど平年に比べ長くなった。

農業試験場奨励品種決定試験(10月16日播種)におけるファイバースノウの出穂期は4月19日で、平年より1日早く、前年より15日早かった。

生育は全般的に穂数がやや多め、一穂当たりの着粒数がやや少なめであるが、出穂以降の日射量が平年並みであり登熟は平年並みの見込みである。刈取は早いところで5月28日頃から始まる見込みである。

大麦の高品質化に向け、適期刈取および容積重690g/lを確保するよう選別の強化を指導している。

年産	出穂期
19年産	4月19日
18年産	5月3日
17年産	4月21日
16年産	4月14日
15年産	4月20日
14年産	4月14日

